

<令和5年度 研究事業報告>

たしかなつながりを ～「確かな学び」の実現を図るために～

教育センターでは、9名の研究員が3つの部会に分かれ、各学校の教育活動に役立つ基礎的・実践的な研究を行いました。

【研究主題】

すべての学びの質を高める授業の構築
～すべての子どもの主体性を引き出す指導の展開～（3／3年次）

【研究内容】（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点から）

- 1 ねらいに直結する学習活動の設定
- 2 ねらいを踏まえた学習課題の提示
- 3 指導と評価の一体化
- 4 子どもの実態に応じた重点的な指導
- 5 多様な他者と協働する場面の設定

1 授業改善推進部会

(1) 研究成果

- 異なるグループ編成での3層構造の話合い活動を設定したことで、子どもが学びの深まりを実感するとともに、対話への参加意識を高めたことで、教科の指導事項の達成へとつなげることができた。（内容1・5）
- 子どもの発達の段階における目指す姿や、その姿に合わせて考えられる単元構成について検討する等、具体的な子どもの姿をイメージしながら単元計画を設定する方法について検証する必要がある。（内容3・4）

(2) 担当研究員（3名）

2 校内研修推進部会

(1) 研究成果

- 子どもに身に付けさせたい資質・能力を明確にして単元計画に位置付けたり、本時の学習内容を焦点化したりすることによって主体的な学びにつなげることができた。（内容1・2）
- 授業のまとめにおいて、子どもの発言を取り上げて学習内容を確認め合わせるなど、教師のファシリテーターとしての役割について理解を深める必要がある。（内容1・3）

(2) 担当研究員（3名）

3 ICT教育推進部会

(1) 研究成果

- クラウド環境を有効に利用し、思考ツールとしてジャムボードを活用することで、ペア学習やグループ交流において、目的意識をもって意見交換する姿につなげることができた。（内容1・5）
- 児童生徒の学びの状況を把握し、その状況に応じて、どのような支援をどの程度行うのかといった、支援方法および支援内容について押さえる必要がある。（内容1・3）

(2) 担当研究員（3名）

詳細につきましては、南北海道教育センター研究事業

（アドレス <https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2022021600241/>）

を御覧ください。